



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)北9西2マンションプロジェクト新築工事	階数	13
建設地	北海道札幌市北区北9条西2丁目19-1, 20-1, 20-3	構造	RC造
建物用途	集合住宅	平均居住人員	96 人
竣工年	2027年3月 予定	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
敷地面積	564 m ²	評価の段階	実施設計段階評価
建築面積	278 m ²	評価の実施日	2025年5月22日
延床面積	2,743 m ²	作成者	村中 仁
		確認日	2025年5月22日
		確認者	村中 仁

※ここに
貼リ付
パースを
ださい。



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 建築環境SDGsチェックリスト評価結果	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.3 ★★★★★★ B</p> <p>S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p> <p>環境品質 Q</p> <p>環境負荷 L</p>	<p>3(保健) 2.2 4(教育) 2.7 5(ジェンダー) 3.0 6(水・衛生) 2.2 7(エネルギー) 2.6 8(経済・雇用) 2.0 9(インフラ) 2.6 11(都市) 1.9 12(生産・消費) 2.2 13(気候変動) 2.2 15(陸上資源) 1.6 17(実施手段) 2.2</p> <p>*SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>
<p>2-4 一次エネルギー消費量の評価</p> <p>建物全体の[BEI][BEIm] 0.80</p> <p>ZEB/ZEH-Mランク Nearly ZEB</p>		

2-4 中項目の評価(バーチャート)
<p>Q 環境品質</p> <p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3</p> <p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.2</p> <p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.1</p> <p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.4</p> <p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.8</p> <p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.2</p>

3 設計上の配慮事項		
<div>総合</div> <div>全住戸において品確法の外皮性能等級5かつ、過半の住戸で等級6以上を達成し、高断熱化・設備の高効率化により建物利用者および、環境への負担を減らした設計としている。</div>		<div>A 省エネルギー</div> <div>高レベルの外皮性能と設備の効率化を実現。</div>
<div>B 省資源等</div> <div>躯体と仕上材が容易に分別可能となる工法を採用し、資源の再利用可能性へ配慮している。。</div>	<div>C 緑化</div> <div>建物正面にシンボルツリーを配置。</div>	<div>D 雪処理</div> <div>特になし</div>

4 ほかの認証・評価制度の利用					
(一財)住宅・建築 SDGs 推進センターのCASBEE認証	なし	BELS認証	★★	LEED認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用	-				

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■環境品質Q=25×(Qのスコア-1)、環境負荷L=25×(5-LRのスコア)より算出

CASBEE_Sapporo2021v1.0
(仮称)北9西2マンションプロジェクト新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2021v1.0

■評価ソフト: CASBEE札幌2021 (ver.1.0)

スコアシート		実施設計段階					
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
			評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質							2.9
Q1 室内環境				0.40	-	-	3.3
1 音環境			3.0	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル		—	3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音			3.0	0.50	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能		—	3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		—		-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		—		-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		—		-	3.0	0.20	
1.3 吸音		—		-		-	
2 温熱環境			3.0	0.35	3.3	1.00	3.2
2.1 室温制御			3.0	0.50	3.7	0.50	
1 室温		—	-	-	3.0	0.63	
2 外皮性能	省エネ	レベル4を超える水準の断熱性能を満たす。	3.0	1.00	5.0	0.38	
3 ゾーン別制御性		—		-		-	
2.2 湿度制御		—	3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式		—	3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境			2.3	0.25	3.3	1.00	3.1
3.1 昼光利用			1.8	0.30	3.0	0.30	
1 昼光率		—	1.0	0.60	3.0	0.50	
2 方位別開口		—		-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備	省エネ	—	3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策			2.0	0.30	4.0	0.30	
1 昼光制御	省エネ	ブラインドによりグレアを制御、もしくはカーテン、スクリーン、オーニング、庇のうち、2種類以上を組み合わせる。	2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度		—	3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		—	3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境			3.6	0.25	3.7	1.00	3.7
4.1 発生源対策			4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		建築基準法を満たしており、かつ建築基準法規制対象外となる建築材料(告示対象外の建材およびJIS・JAS規格のF☆☆☆☆)をほぼ全面的(床・壁・天井・天井裏の面積の合計の70%以上の面積)に採用している。	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気			3.0	0.40	3.3	0.38	
1 換気量		—	3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		居室面積の1/8以上の開閉可能な窓を確保している。		-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		—	3.0	0.50	3.0	0.33	

4.3 運用管理					-	-	
1	CO ₂ の監視		—		-	-	
2	喫煙の制御		—		-	-	
Q2 サービス性能					0.30	-	3.2
1 機能性				3.1	0.40	3.2	1.00 3.1
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.0	0.60
1	広さ・収納性		—		-	-	
2	高度情報通信設備対応		—		-	3.0	1.00
3	バリアフリー計画		—	3.0	1.00	-	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.5	0.40
1	広さ感・景観		住居・宿泊部の天井高2.5m以上。		-	4.0	0.50
2	リフレッシュスペース		—		-	-	
3	内装計画		—	3.0	1.00	3.0	0.50
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	
1	維持管理に配慮した設計		防汚性の高い素材や仕上げを採用することにより、維持管理に配慮している。	4.0	0.50	-	
2	維持管理用機能の確保		—	3.0	0.50	-	
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		—	3.0	0.80	-	
2	免震・制震・制振性能		—	3.0	0.20	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.6	0.30	-	
1	躯体材料の耐用年数		住宅の品質確保の促進に関する法律(日本住宅性能表示基準、3.劣化の軽減に関する事)における木造、鉄骨又はコンクリートの評価方法基準(平成26年国土交通省告示第151号)で等級3相当	5.0	0.20	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	—	3.0	0.20	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	—	3.0	0.10	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	—	3.0	0.10	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	主要な用途上位3種の、2種類以上にC以上を使用	4.0	0.20	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	—	3.0	0.20	-	
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	
1	空調・換気設備		—	3.0	0.20	-	
2	給排水・衛生設備		—	3.0	0.20	-	
3	電気設備		—	3.0	0.20	-	
4	機械・配管支持方法		—	3.0	0.20	-	
5	通信・情報設備		—	3.0	0.20	-	
3 対応性・更新性				3.0	0.30	3.6	1.00 3.4
3.1 空間のゆとり					-	4.2	0.50
1	階高のゆとり		3.0m以上		-	5.0	0.60
2	空間の形状・自由さ		—		-	3.0	0.40
3.2 荷重のゆとり			—		-	3.0	0.50

3.3 設備の更新性				3.0	1.00		-	
1	空調配管の更新性		—	3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		—	3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		—	3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		—	3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		—	3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		—	3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.30	-	-	2.1
1	生物環境の保全と創出	緑化	—	1.0	0.30		-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	緑化	—	3.0	0.40		-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30		-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	雪処理	—	1.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化	—	3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	3.6
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	4.4
1	建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	BPI= 0.00 品確法= 等級4を 超える 全住戸等級5かつ、過半の住戸が 等級6	5.0	0.20		-	5.0
2	自然エネルギー利用	省エネ	—	3.0	0.10		-	3.0
3	設備システムの高効率化	省エネ	BEI= 0.80 —	5.0	0.50		-	5.0
4	効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
	集合住宅以外の評価				-		-	
4.1	モニタリング	省エネ	—		-		-	
4.2	運用管理体制	省エネ	—		-		-	
	集合住宅の評価			3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング	省エネ	—	3.0	1.00		-	
4.2	運用管理体制	省エネ	—	-	-		-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	2.8
1	水資源保護			3.0	0.20		-	3.0
1.1	節水		—	3.0	0.40		-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		—	3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		—	3.0	0.30		-	
2	非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60		-	2.8
2.1	材料使用量の削減	省資源	—	3.0	0.10		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	省資源	—	3.0	0.20		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	—	3.0	0.20		-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	—	1.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	省資源	—	3.0	0.10		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	躯体と仕上材が容易に分別可能	4.0	0.20		-	

3	汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20		-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			—	3.0	0.30		-	
	3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70		-	
	1	消火剤	省資源	—	-	-		-	
	2	発泡剤(断熱材等)	省資源	—	3.0	0.50		-	
	3	冷媒	省資源	—	3.0	0.50		-	
	LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.2
1	地球温暖化への配慮		省資源	—	3.8	0.33		-	3.8
2	地域環境への配慮				3.0	0.33		-	3.0
	2.1 大気汚染防止		省資源	—	3.0	0.25		-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		省資源 緑化 雪処理	—	3.0	0.50		-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25		-	
	1	雨水排水負荷低減	省資源	—	3.0	0.25		-	
	2	汚水処理負荷抑制		—	3.0	0.25		-	
	3	交通負荷抑制		—	3.0	0.25		-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	—	3.0	0.25		-	
3	周辺環境への配慮				3.0	0.33		-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
	1	騒音		—	3.0	1.00		-	
	2	振動		—	-	-		-	
	3	悪臭		—	-	-		-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40		-	
	1	風害の抑制		—	3.0	0.70		-	
	2	砂塵の抑制		—		-		-	
	3	日照阻害の抑制		—	3.0	0.30		-	
	3.3 光害の抑制				3.0	0.20		-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		—	3.0	0.70		-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		—	3.0	0.30		-	



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2021v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2021(ver.1.0)

1 建物概要					
建物名称	(仮称)北9西2マンションプロジェクト新築工事	BEE	1.4	BEEランク	B+
建物用途	集合住宅,				
延床面積	2,743.1 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート			
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー				
	省資源等				
	緑化				
	雪処理				
		<p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>			

3. 重点項目のCASBEEスコア									
A 省エネルギー		(最高点	30.0	最低点	8.9)	合計	25.8点 / 30.0点
Q1 温熱環境	スコア	3.6	/	3.9	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	4.0	/	4.0
Q1 光・視環境	スコア	4.6	/	6.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2	/	2.0
					LR1 設備システムの高効率化	スコア	10.0	/	10.0
					LR1 効率的運用	スコア	2.4	/	4.0
B 省資源等		(最高点	23.7	最低点	7.7)	合計	14.8点 / 23.7点
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.7	/	1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	5.0	/	9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4	/	2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.3	/	1.9
					LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.8	/	5.0
					LR3 地域環境への配慮	スコア	2.6	/	4.4
C 緑化		(最高点	15.3	最低点	3.1)	合計	7.4点 / 15.3点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	0.9	/	4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.5	/	2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	3.6	/	6.0					
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4	/	2.3					
D 雪処理		(最高点	3.0	最低点	0)	合計	0.0点 / 3.0点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0	/	1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	0.0	/	2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数